
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成 17 年 4 月 28 日

鹿児島湾 No. 2

[1] 4月26日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

湾奥部牛根沖～福山沖において夜光虫（ノクチルカ シンチランス）による帯状の着色がごく一部確認されました。

全体的に前回調査時に比べプランクトンの種類、数ともに増加し、特に湾中央部では珪藻類の増加が顕著でした。

また、湾奥部中央、磯沖、竜ヶ水沖、重富沖、新島沖、牛根沖でシャトネラ グロボーサが最高2細胞/ml確認されました。

なお、ヘテロシグマ アカシオ、シャトネラ マリーナなどの有害プランクトンは確認されませんでした。

(2) 海況

表層水温は湾奥部で17.9～19.3 で平年同時期に比べやや高め、湾中央部で17.4～18.2 と湾中央部で平年同時期に比べやや低めとなっています。

また、塩分は32.0～34.3で平年同時期並となっています。

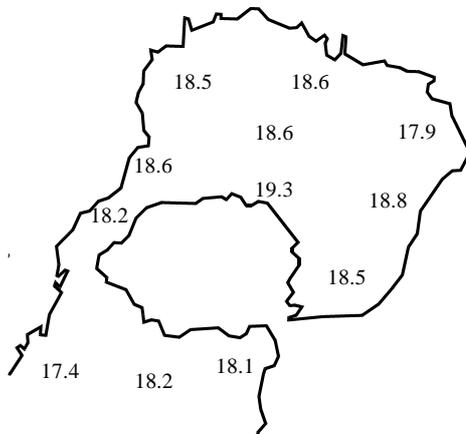
透明度については、7.5～10mと平年並ですが、前回調査時に比べ5m程度低くなっています。

水 温：平均	18.4	湾奥部	18.6	湾中央部	17.9
塩 分：平均	33.2	湾奥部	32.9	湾中央部	34.2
透明度：平均	8.7m	湾奥部	8.4m	湾中央部	9.5m

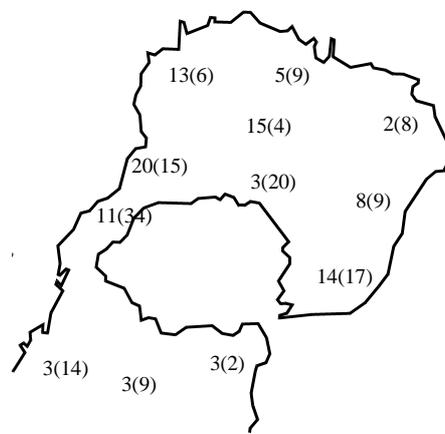
[2] 今後の赤潮発生の予想

依然としてセラチウム属（優占種はセラチウム フスス、トリポス、フルカ）が、全体的に確認され、前回調査時に比べ数が増加しています。現在のところ直ちに問題となる数ではありませんが、前回の赤潮情報で記載のとおり、おおよそ 100 cells/ml を超えるあたりから極端な餌食いの低下がみられます。ヘテロシグマ等に比べ分裂速度がそれほど速くないことから、急激に大規模な赤潮を形成する可能性は低いですが、風や潮流等により急激に集積すること考えられますので、当面は給餌の際、海水の色や養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要です。

一方、シャトネラ マリーナは、細胞が確認されていないことからしばらくは本種による赤潮の発生はないと思われます。



表層水温 ()



セラチウム属表層細胞数
 [cells/ml, ()内は10m層]

赤潮情報：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>